

# 50万人都市が挑む子育て支援

## 「子どもは宝」の精神で

### 変貌を遂げた江東区豊洲

「あの?、ここはどこなんでしょ  
うか」

二三男くんが女性に聞くと、「こ  
こは豊洲ですよ」と教えてくれまし  
た。女性の周りでは小さな子どもた  
ちが不思議そうな顔で二三男くんを  
覗き込んでいます。

江東区豊洲。二三男くんが住ん  
でいた時代の豊洲は、まだ工場地帯で  
した。

戦後は、石川島播磨重工業の工場  
や東京電力の火力発電所、東京ガス  
の都市ガス製造工場などが建ち並び  
ましたが、二三男くんがタイムス  
リップしてきた2018（平成30）  
年には、オフィスや住宅、大型の商  
業施設など、街の景色は変貌してい

ます。

女性は「子どもたちが外に人が倒  
れているっていうから、驚きました  
よ。救急車、呼びますか」と言うつと、  
子どもたちが「きゅーきゅーしゃ!  
きゅーきゅーしゃ!」と騒ぎ始めま  
した。

二三男くんは「今、いったい昭和  
何年なんですか」と聞くので、女性  
は「昭和じゃなくて、平成です。平  
成30年です」と苦笑しました。

二三男くんは、途方に暮れてしま  
いました。

女性は「私はその保育園で保育  
士をしています。何かお役に立てま  
すか」と二三男くんの顔を覗き込み  
ました。二三男くんはどうしたらいい  
のか分からず、「区役所はどこです  
か」と聞き、その場を後にしました。

### 子育て支援に特化した 総合戦略

空襲で焼け野原だったはずの江東



区は、70年で近代的な市街地に変貌  
していました。広い道路には多くの  
自動車が行き交い、歩道には人が溢  
れています。

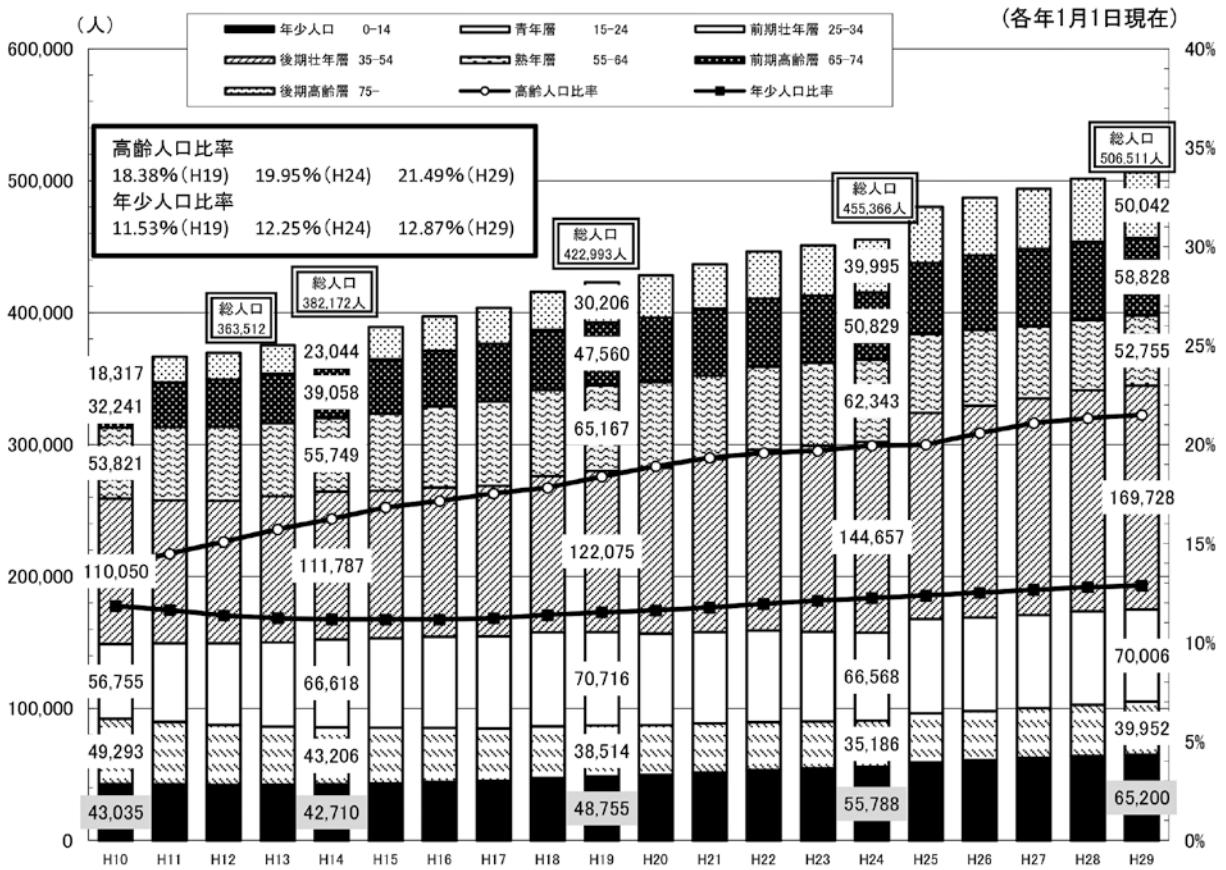
現在の江東区役所は東陽町にあり  
ます。二三男くんはまず、そこを訪  
れました。

窓口の職員に興奮した様子で街の  
変貌を語った二三男くん。でも、職  
員にはよく理解できなかつたのか、  
苦笑いしながら『江東区長期計画(後  
期)』という冊子を渡してくれまし  
た。そして、「人口のことをお知り  
になりたいなら、こちらはいかがで  
すか」と、『地方創生における子育  
て支援策(平成27〜31年度)』とい  
う資料も紹介されました。これが、  
江東区版の人口ビジョンと総合戦略

2カ所目のサテライト保育となる  
江東海岸サテライトスマートナー  
サリースクール



■江東区の人口推移



です。

2015 (平成27) 年3月に策定した「江東区長期計画(後期)」では、将来人口推計に基づく人口分析を行ったほか、施策ごとにその取り組みの成果や目標を数値化した指標を設定するとともに、行政評価システムに基づくPDCAサイクルの実施により、適切な施策展開を図っています。

こうした取り組みは、「地方版総合戦略」の考え方と一致することから、同区では「江東区長期計画(後期)」に基づき地方版総合戦略を策定することとなりました。

総合戦略における「江東区が目指す姿」や「分野別戦略」などは、国が総合戦略で示した四つの基本目標のうち、長期計画(後期)の「分野別計画」で定めた「子育て支援」関連施策の内容に特化しています。これが、江東区の総合戦略の最大の特徴です。

人口50万人時代の到来

二三男くんはまず、冒頭の人口ビジョンに興味を持ちました。

江東区の人口は今、50万人を超え



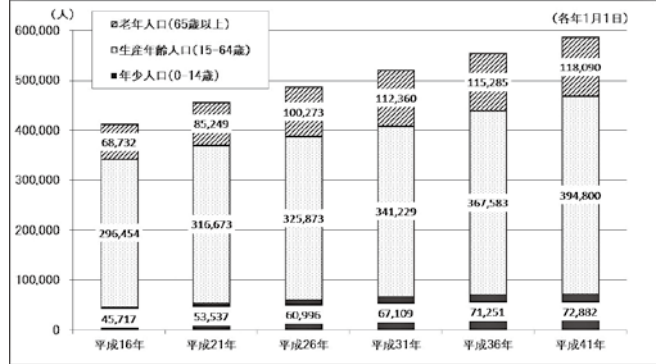
ています。二三男くんが住んでいた時代、江東区の地域(深川区・城東区)は1940(昭和15)年には約41万人もの人口を抱えていましたが、戦時中の空襲や疎開などによって住民は激減し、終戦直後の人口は約2万5千人まで減ってしまいました。

戦後の復興とともに人口は上向きとなり、「江東区」としてスタートした1947(昭和22)年には約4万1千人、1987(昭和62)年には39万3千人まで増加しました。

以降、数年にわたって若干の減少が見られたものの、1998(平成10)年からは再び増加に転じ、2002(平成14)年には40万人に到達。その後も南部地域をはじめと



■総合戦略で示された江東区の将来人口推計



した大規模マンションの開発などに伴い、他に類を見ない速さで伸び続け、2015（平成27）年6月12日、ついに50万人に到達しました。

二男くんがさつきまで見上げていた豊洲の高層マンション群。これこそ、江東区の人口を押し上げている原因だったのです。

江東区の将来人口推計は、今後も増加を続ける見通しで、2029（平成41）年では2014（平成26）年に比べ、9万8630人、20・2%増の58万5772人となる見込みです。

## 全国初のサテライト保育

では、総合戦略を具体的に読んでみましょう。

まず基本目標として、「保育サービスの充実」とあり、「施策が目指す江東区の姿」として、「保育施設が十分整備されているとともに、多様な保育サービスが提供され、安心して子どもを産み、育てることができます」と書いています。

また、「講ずべき施策に関する基本的方向（施策を実現するための取り組み）」として、保育施設の整備を挙げ、「保育所待機児童を解消するとともに、入所児童が安全・快適に過ごすことができる施設環境を確保します」と示しました。

二男くんは、ふと疑問を感じました。豊洲からずっと区役所まで歩いた道のりには、住宅やビルが並んで、道路には多くの車が行き交っています。こんな密集した市街地で、子どもたちが安心して過ごせる場所なんて確保できるのだろうか。

実際、江東区に限らず、都内は保育所の整備できる土地を確保することが難しくなっています。また、仮

に土地があっても保育所を設置できる場所とは限りません。

総合戦略には、そんな江東区の対策が書いてありました。「サテライト保育」です。

江東区では2013（平成25）年4月に待機児童数が過去最高の416人にまで増えました。待機児童の解消のためには大量の定員確保が必要です。とはいえ、待機児童がいるエリアに大規模物件がなく、賃料も高騰していました。そこで、他の自治体でも事例がある送迎ステー



サテライト保育の送迎の様子

ションの検討を始めたのです。

国の「広域的送迎事業」では、子どもが送迎バスに乗っている時間が長いことや、保護者が週1回、送迎先の指定園に直接行き、状況確認しなければならぬなど、利用者の負担が大きいのが難点でした。また、送迎対象は2歳児または3〜5歳児のため、待機児童が多い0〜1歳児の定員を多く確保することはできません。

江東区は、本園と分園を一体的に整備し、同一法人が運営。駅前などにある分園から広い面積の本園に、2〜5歳児をバスで送迎する仕組みを採用しました。送迎の時間は15分程度で、子どもへの負担は軽くなります。

これなら、都市部でも大規模施設の整備が可能で、保護者は駅前などの利便性が高い分園に預けることができます。分園と本園を同一事業者が運営することで、保護者も安心できます。都市部の実情に合った全国初の取り組みです。

2014（平成26）年4月には、本園を有明、分園を豊洲に持つ「江東湾岸サテライトナーサリースクー

ル」を開設。オフィスビルの1フロアを広々と使った本園では計322人の定員を確保。豊洲の分園は、豊洲駅から徒歩5分という近さで、有明の本園まではバスで15分という距離です。最初、二三男くんが出会った子どもたちは、本園までの送迎バスを待つ子どもたちだったようです。

サテライト保育所は現在、区内3カ所まで増えました。

### 子育て家庭のための支援策も

これに加え、江東区では、新たに建設される一定規模以上のマンション内に予め保育所を整備されるよう、「江東区マンション等の建設に関する指導要綱」などで誘導しています。区は事業者に公共施設の整備に一定の協力を求めています。民設民営の保育所を整備すると協力がと相殺します。

もちろん、保育所を増やすだけではなくありません。「マイ保育園ひろば事業」は、在宅で子育てをしている家庭を支援する施策です。

身近な保育園を「かかりつけ保育



子育て家庭を支援する「子ども家庭支援センター（みずべ）」

園」として登録してもらい、保育園が行っているイベントや行事の案内、子育てに役立つ情報を掲載したお便りを送付したり、保育園職員による育児相談などを実施しています。

子育て家庭を支援するため、子ども家庭支援センター（みずべ）を区内5カ所に設置。子育てひろば、子育て相談のほか、母親（父親）講座、専門相談、ボランティア養成講座・



一時預かり保育、児童虐待対応など、様々な事業を行っています。

### ハジメタビ

「まさに至れり尽くせりだなあ」。終戦直後の東京しか知らない二三男くんにとっては、目から鱗が落ちるような話ばかりです。

とはいえ、二三男くんは、子どもが増えることで、待機児童も増え、区役所がその対応に追われていることが、メリットばかりではないような気がしました。

江東区は毎年、千人近い保育定員の確保に努めています。2017（平成29）年4月1日現在の待機児童数は、ピークよりは減ったものの322人です。保育所を整備すると、さらに子どもも増えてしまいます。

国の総合戦略が「地方への新しいひとの流れをつくる」とうたっている中、江東区は多いときには毎年1万人近い流入人口を受け入れ、子

育て支援に力を入れてるのは、なぜでしょうか。二三男くんは、区役所の窓口の職員に素朴な疑問をぶつけてみました。

職員はニコリと笑って、「うちの区長の口癖は『こどもは宝』ですから」と答えました。

江東区は2009（平成21）年3月に策定した基本構想で、江東区の将来像を「みんなのできる伝統、未来 水彩都市・江東」と決めました。そして、目指すべき江東区の姿の一つに、「未来を担う子どもを育むまち」と示しています。

「僕たちの時代は戦争で人口が減ってしまったが、焼け野原からの復興にとって、子どもは宝だった。江東区がここまで発展してきたのは、未来を担う子どもを大切にしてきたからにはかならない。人口が50万人を超えたこの時代でも、その精神が息づいているのは、素晴らしいことだ」

70年後の東京には、希望も困難もありました。二三男くんは、これまでの過去とこれからの未来を調べてみようと、70年後の23区を回ってみることにしました。